南花台モビリティ「クルクル」出発式

全体事業概要説明

南花台
Nankadai Mobility
クルクル

河内長野市
総合政策部
政策企画課

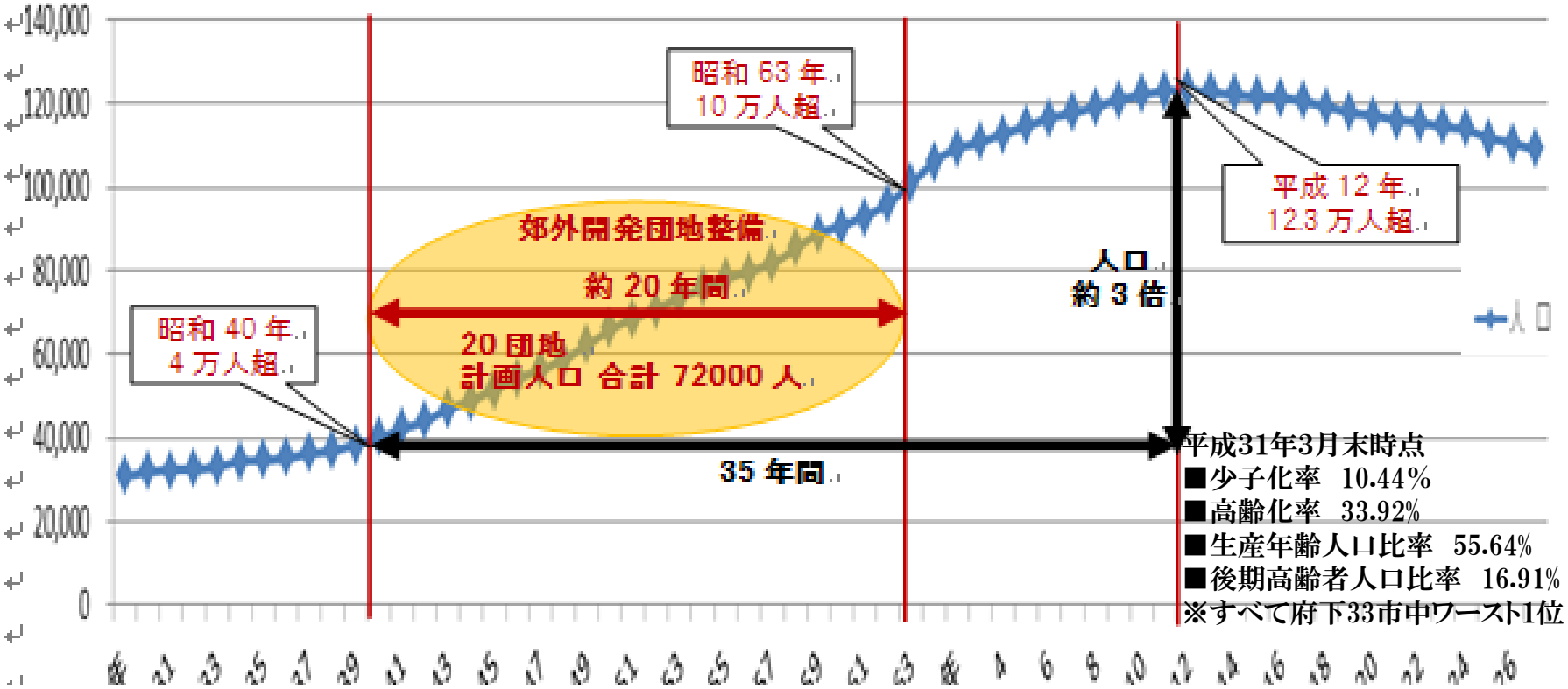
南花台のまちづくり

南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業
（咲っく南花台プロジェクト）

1－1.「咲っく南花台プロジェクト」着手のきっかけ

開発団地再生モデル構築の必要性の高まり

本市は他市に比較し人口減少・少子高齢化が急速に進んでいる、その最も大きな原因である開発団地の有り方の検証が急務であった。



1－2.「咲っく南花台プロジェクト」着手のきっかけ

南花台西小学校跡地活用

平成25年3月に閉校した南花台西小学校跡地の有効活用が急務であった。

まちづくりと一体的に検討し、地域の活性化に繋がる効果的な施設誘致を、地域の合意形成を図りながら進めていくこととした。

1－3.「咲っく南花台プロジェクト」着手のきっかけ

関西大学との連携

「団地再編COMPETITION 2013」の実施

関西大学がUR南花台団地を対象地にし、「団地全体の仕組みの再編、その結果としての空間の再編、新たな暮らしの提案」をテーマとして実施

南花台を研究のフィールドにする関西大学

応募登録　172件
提出作品　23作品

1－4.「咲っく南花台プロジェクト」着手のきっかけ

「スマートエイジング・シティ」の提言による大阪府との連携

大阪府市医療戦略会議7つの提言の1つである「スマートエイジング・シティ」の実現に向け、南花台を郊外型開発団地のモデル地区として位置付けられた。

	戦略案		メインとなる主体		キーとなる視点		ねらい	取組みに関わる他の主体
①	予防・疾病管理、府民行動変革	＝	府民 保険者等	×	主役は消費者 治療から予防へ	→	健康指標の向上 健康格差の解消	保健医療提供機関等、基礎自治体、大阪府等
②	ﾚｾﾌﾟﾄﾃﾞｰﾀの戦略的活用	＝	保険者等	×	支払者の行動変革 医療費適正化 医療の標準化	→	医療の価値追求 情報管理産業化	府民、保健医療提供機関等、研究機関、大阪府等
③	医療情報の電子化とビッグデータの戦略的活用	＝	大阪府	×	創薬等ﾋﾞｼﾞﾈｽ支援 医療データベース構築			保険者等、保健医療提供機関等
④	地域密着型 医療・介護連携 最適モデル実現	＝	医療・介護従事者 保健医療提供機関等 基礎自治体	×	多職種・多機関連携 市町村の主体性	→	保健医療ｻｰﾋﾞｽ 持続可能性確保	大阪府
⑤	増益モデル型 民間病院の高度化・経営基盤強化	＝	民間病院 大阪府	×	増益モデル型 地域や規模の経済 資金調達システム			大阪府
⑥	スマートエイジング・シティ	＝	基礎自治体 大阪府	×	サプライチェーン 仕組み・構造変革 まちづくり	→	重要戦略産業振興 生活総合産業化 Aging in Place	府民 保健医療提供機関等 企業
⑦	スマートエイジング・バレー構想（産業振興）	＝	大阪府	×	研究・開発 実証インフラ 認証制度			企業・研究機関等

2－1.「咲っく南花台プロジェクト」の経過

■平成26年10月

「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業立ち上げ

【実施体制】

地域住民を中心に大阪府・河内長野市・関西大学・㈱コノミヤが連携し立上げ

【実施内容】

関西大学学生による地域ワークショップを通じた地域の声の収集

①みんなの拠点づくり　②健康仲間づくり

③生きがいづくり　④子育て子育ち環境づくり

⑤まちの情報発信

2－2.「咲っく南花台プロジェクト」の経過

■平成27年10月
「コノミヤテラス」オープン

■平成28年 4月
第5次総合計画に南花台を「丘の生活拠点」と位置付け

■平成29年 4月
南花台西小跡地を活用し、錦秀会看護専門学校を誘致

■平成29年 4月
『咲っく南花台事業者の会』発足

2－3.「咲っく南花台プロジェクト」の経過

■平成29年12月

UR都市機構において
『南花台団地集約型団地再生事業』着手

■平成30年 2月

河内長野市・関西大学・UR都市機構
の連携協定締結

■平成30年12月

河内長野市・関西大学・㈱コノミヤ
の連携協定締結

3. 咲っく南花台プロジェクトの成果

4. 咲っく南花台プロジェクトの目標

地域住民が

住み慣れた場所で

多世代でふれあいながら

住み続けられるまち

咲っく南花台

低速モビリティによる移動支援
南花台モビリティ「クルクル」

IoT技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業

環境省

南花台

Nankadai Mobility

クルクル

5. 南花台モビリティ「クルクル」が目指すもの

「のりあい」から、「ふれあい」へ。

「この乗物、ただの乗り合いちゃいますねん。
ちっちゃい子も若いヒトも、おっちゃん、おばちゃん、じいちゃん、ばあちゃんも
気ぃよー乗ってもろて、楽しくしゃべって、元気になって、
みんな笑顔になれる。そんな乗物にしたいんよ！

ほんで、
これに乗って、色んな仲間ができて、やがてみんなが助け合う仲になる！
つまりね、
「のりあい」から「ふれあい」へ！ちゅうことですわ。

この乗物がね、
街をクルクル走って、街に「色」つけて、
今までとちゃう、おもろい乗物になったら、
この南花台から、クルクルと終わることがあらへん
お話が始まるし、めっちゃええやん！」

○ロゴマーク意図

時速10ｋｍという低速走行と健康長寿のイメージから
ゆっくりと着実に動く、亀をモチーフにしました。
亀の甲羅は、南花台の緑多き台地を表現しています。

○ネーミング意図

乗物が南花台を巡回走行する様子と
持続可能な地域未来をイメージして
誰でもわかりやすくて、覚えやすい
ネーミングとしました。
来る・回る・続く・身軽に動く等を想起させます。

南花台
Nankadai Mobility

のんびり、楽しく、いかへん？
クルクル

6. 南花台モビリティ「クルクル」検討の必須条件

1. 車中心の生活から脱却し、環境に配慮できるまちを地域と一体で創出すること
2. 地域の課題を具体的に解決するものであること
3. 地域住民の生活の質（QOL）を高めるものであること
4. 自立性のある運用ができる仕組みを構築すること
5. 将来にわたり継続的に運用できる仕組みを構築すること
6. 他地域への横展開ができる汎用性のある仕組みを構築すること

南花台
Nankadai Mobility

7. 南花台モビリティ「クルクル」の特徴

【特徴1】

地域住民主体で社会福祉協議会支援による運行

【特徴2】

AIを活用した予約システムによる効率的な運行

【特徴3】

地域内の電柱342本を乗降ポイントとしたデマンド運行

【特徴4】

地域に愛される商業店舗との連携による運行

（運行拠点・電気の提供）

8. 南花台モビリティ「クルクル」の特徴

【特徴5】

環境に配慮した低速電動ゴルフカートを使用

（速度10km/hで走行）

9. 南花台モビリティ「クルクル」の運行

（1）運行期間

【運行期間】
令和元年12月9日（月）運行スタート
※毎週　月曜日、木曜日（週2日運行）
※その他地域内イベントに合わせて運行
※利用ニーズ、安全性、システムの動作確認等を行いながら運行曜日の増加を図る。

（2）運行エリア・ルート

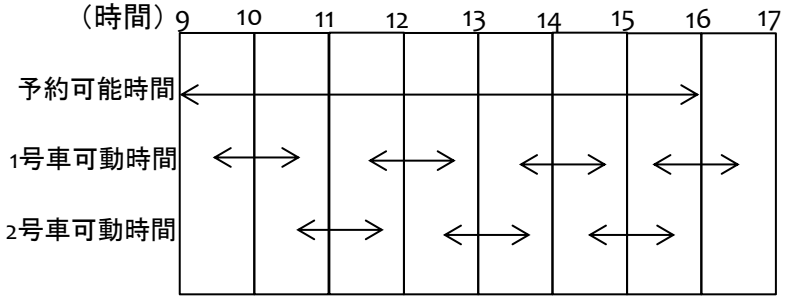
⇒走行エリア

⇒UR団地エリア（R3年度より走行予定）

⇒団地内幹線道路走行不可区間

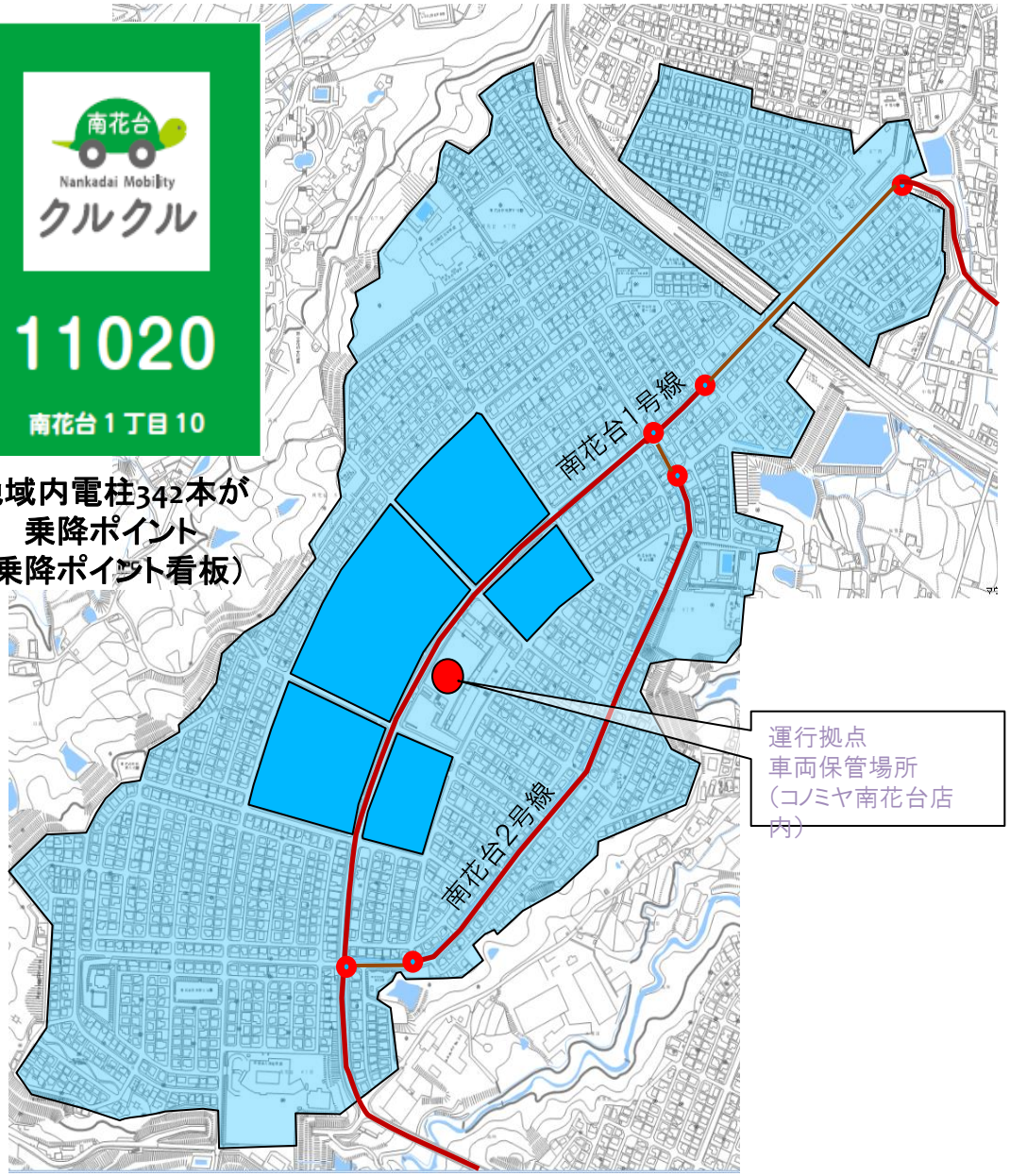
※その他　内の街路は走行可

（3）運行ダイヤ
午前9時30分～午前4時の間、予約システムの指示に基づき運行（電話予約は9：15～）



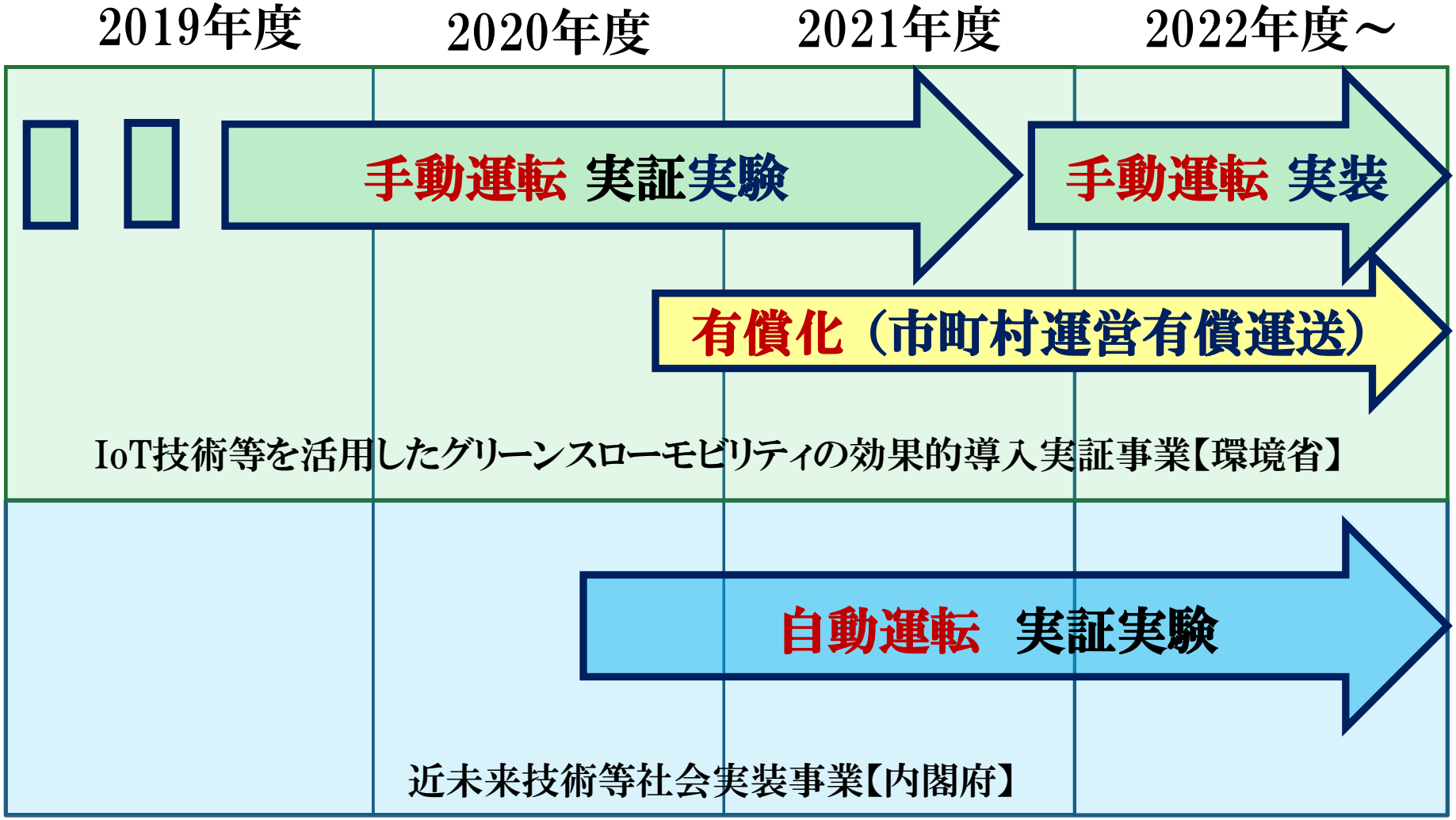
（4）運行形態
地区内の電柱342本を乗降ポイントとしてデマンド運行（システムによるリアルタイム予約）
運転手・補助者2名のスタッフが常時乗車
予約に基づきAI運行バスが導きだした順路に従い走行

地域内電柱342本が乗降ポイント（乗降ポイント看板）



10. スケジュール（想定）

段階的な検証を重ねながら、着実に価値ある移動支援の実装モデルを構築する。



南花台モビリティ「クルクル」出発式

事業概要説明

南花台
Nankadai Mobility

のんびり、楽しく、いかへん？
クルクル

おわり

ご清聴ありがとうございました